

## 映画の小箱

1920年代の上海と蘇州を舞台に、ある男と女の愛の移ろいと哀しみを流麗な映像の中に描き出す。

## 『花の影』 華やかな時代の 光と闇

金丸弘美=文  
text by Hiromi Kanamaru  
エリック・ランク=写真  
photograph by Erik Rank

水路の揺れる水、そして緑深い蓮と淡い色の花。水路に浮かぶぼんやりと灯籠の灯に照らされる手漕ぎの船、そこに乗った刺繍をほどこした中国服を着た人々。そんな場面から、この物語は始まる。その水路のゆらゆらとした光の反射と、次第に輪郭がはっきりしてくる蓮や船の様子は、まるで、一瞬のまどろみの夢の中に登場するかのようだ。

ここに登場する主人公たちの時代は、いまでは想像もできないほどに、きらびやかで、エネルギーッシュで、魅惑的で、混沌とし、猥雑で、頹廢に満ちている。近代と過去と、国内と海外との文化がせめぎあい、そして人のさまざまな思惑や矛盾、未知の運命がまる

で極限までに満ち満ちている。

そんな時代とは、一九二〇年の蘇州、そして一九二〇年代の上海である。

船に乗って水路をつたい、姉の嫁いだ蘇州の旧家の富豪の家にやってきたのは主人公の二三歳の少年・忠良（レスリー・チャン）だ。彼は両親が亡くなったために姉・秀儀（ホウ・サイフエイ）の嫁ぎ先に来た。しかし、姉の夫・正達（チョウ・イエマン）は阿片の常習者で、忠良を用人として使い、あろうことか彼を自分と姉との寝室に招き入れた。その行為に、傷ついた忠良は、やがて家を去る。

その後忠良は、上海で、マフィアの二員となる。彼が闊歩するのは、にぎやかなレヒュ

## 『花の影』

(香港/エース・ピクチャーズ) Temptress Moon 1996年

監督=チェン・カイコー

出演=レスリー・チャン/コン・リー/リン・チェンフオア

ホー・サイフエイ/デビッド・ウー/コー・シャンホン

東京・Bunkamuraル・シネマにて上映中



1が行われるボウルルーム。ビッグバンドが奏でるジャズのなかで、人々は草葉に酔い、新しい海外からのファッションに身を包み、シャンペングラスを傾け、踊り明かす。

マスクのいい忠良の仕事は、上海の盛り場を舞台に、身持ちのいい人妻と愛人関係になつて、そして仲間に自分と人妻との逢い引きの場所を襲わせ、不倫を脅迫して、金品を巻き上げ、自分も被害者を装って姿をくらますのである。そんな彼に、マフィアのボスは、あるうことか姉のもとへ行くことを命じる。

姉の夫・正達は旧家の跡取りだが、阿片で廃人になっていた。このため、正達の家を取り仕切る長老たちは、正達の妹・如意(コン・リー)に遠戚の端午(ケビン・リン)を身の回りの補佐役につけ、家督を相続させることにする。

ボスが忠良に命じたのは、如意を道ならぬ恋に巻き込んで、金品を巻き上げることだ。如意とは、かつて姉のところを訪ねたときに、遊んだこともあった仲である。

彼は苦悩の中で、再び、忌まわしい過去の世界へと踏み込む。そして、今は美しく成長した如意と再会するのだ。

旧富豪の家で外とはまったく閉ざされた世界に住む如意にとつて、忠良は、外からの一条の美しい明かりのように映る。そして、彼の語る見知らぬ上海や、さまざまに新しいできごとに憧れ、恋をしようのうた。

如意は忠良に従い、初めて自分の家を離れて都会へと足を入れた。そこで待ち受けたのは忠良の裏切り。如意は忠良から離れて別の

男と結婚することを決意する。

だが仕事として如意を裏切った忠良の心の中に、如意に対する思いが、頭をもたげてくる。それは、仕事をするものとしてはもってほならない感情。それをあえて踏み越えようとしたとき、忠良にも如意にも、思いもかけぬ運命が訪れ、ふたりを翻弄することになる。

この忠良と如意に与えられたふたりの世界のなんとほかなく、しかし、美しいこと。ふたりが生きようとした世界は、それぞれに純粹なものには違いなかつたはずだ。しかし、彼らが純粹であればあるほど、その時代の波の過酷なまでの大きさが、ふたりを飲み込んでいくかのようだ。

ここにはあまりにも対照的な情景と人々の情念が繰り広げられる。蘇州の清朝時代を象徴する旧富豪の家とそこに住む人々。如意と忠良の姉の住む家は非常に広大だ。広大だが決して機能的ではない。薄暗さもある屋敷には、一つの時代の頂点と頹廃が同居している。

一方、如意の家とはきわめて対照的なのが当時の上海である。イギリスが開港を迫られた後、さまざまな国の異文化が入ってくる。建築物はもちろん音楽や踊りやファッションなども、これまでになかつた西欧式近代が、中国を襲い始めるのである。

そして、この極めて対照的な如意の家と上海の享楽街のなかで、繰り広げられる如意と忠良の運命のあやうさ怖さ。それが、まるで時空を自在に走るかのような、さまざまな色彩を捉えるカメラの見事さといひまわって、美しくも哀しい、一つの詩を生み出している。♪